



山口でシンポ パネル討論も

衣料製造人材育成研修シンポジウム「地域におけるファッション産業化へのプロセス」が11日、山口市のニューメディアプラザであり、県内の繊維産業関係者ら約90人が参加した。県繊維加工業協同組合(岡部泰民理事長)に加盟する繊維加工業者らでつくる匠創やまぐち実行委員会(同委員長)の主催。山口新聞社など後援。

パネリストは、アパレル工業新聞社の本多徹主幹、山口井筒屋の河内一彦代表取締役社長、山口経済研究所の宗近孝憲調査研究部長、繊維ニュースのテキスタイル担当宇治光洋さん、岡部理事長の5人。パタン

.....

地域に根差すファッションの産業化について意見を交わすパネリストたち

ナー(デザイン画を型紙に起こす設計士)の養成と地域が一体となったファッション産業化への具体的な手段について意見を交わした。

パネルディスカッションに先立ち、本多さんが「メイドインジャパンの展望」と題して基調講演。ファッションの先進国イタリアで長年取材を重ねた経験を踏まえ「イタリアでは製造から販売まで地域が一体となり、それぞれの地域が自信を持って作っている」と説明。「価値ある『メイドインジャパン』を作るためには、これまで日本で分業されていたデザインと設計、縫製までが一体となり、商品価値どおりに販売する小売店の協力が不可欠だ」と強調した。

同組合は毎年11月、山口

市でデニムコンテスト「ジャパンファッションデザインコンテストin山口」を開催。11月8日の第10回で最終回を迎えるのを機に次世代を担うパタンナーの育成を図ろうと、衣料製造人材研修「ファッション衣料の設計セミナー」を企画し、PRを兼ねて今回のシンポジウムを実施した。

同セミナーは19、26日、10月3、31日の計4回。同市矢原の雇用・能力開発機構ポリテクセンターで、衣料製造業界関係者や学生など約20人を対象に開く。午前10時から午後4時まで。問い合わせは同組合事務局(☎0833・925・1243)へ。